

令和4年9月司法試験合格 S.N.さん

2020年4月 筑波大学法科大学院既修コース入学

2022年3月 筑波大学法科大学院既修コース修了

2022年9月 司法試験合格

1. はじめに

筑波大学の入学を思いついたのは、法律の知識をスキルとして身につけないといけない、と考えるようになったからです。

私は、大学病院で、院内で発生した医療事故やその調査、患者との紛争等を扱う、医療の安全に関わる部署に所属しています。当該部署の特殊性もあり、法律の知識が必要と考え、勉強を始めていましたが、正確で専門性のある知識を習得しないといけないのではないかと、日に日に感じるようになっていました。そんな中、働きながら行ける法科大学院がないか、調べていたところ見つかったのが、筑波大学でした。そのとき、「合格者からのメッセージ」を読み、ここなら司法試験にも合格できる知識を習得できるのではなかと考え、入学に向けた準備を進めました。

司法試験が最難関の試験といわれているものの、全体の合格率をみると昔ほど難しい試験ではなくなっているように見えました。合格した後でも感じるのは、簡単な試験ではないことには変わりはありません。しかし、しっかりとした学習をすることで、誰でも十分に合格できるものと感じています。

筑波大学には、下記に述べるよう、合格に必要なカリキュラムや設備等が準備されています。司法試験を目指しているのであれば、とても良い法科大学院であると感じています。

2. 筑波大学の学生生活

筑波大学での学習について、①授業、②チューターゼミ、③学習設備、④その他の4つの点から述べます。

(1) 授業

私は、既修者枠で入学をしたため、憲法・民法・刑法・民事訴訟法・刑事訴訟法（入学試験の科目に該当）については、基礎講義が免除されました。そういったこともあり、基礎講義があった司法試験の試験科目は、行政法と商法の二つの科目でした。それ以外の授業では、実務科目や司法試験の選択科目（労働法や国際公法等）、基礎法学の科目（法哲学や立法学等）がありました。授業で配布された資料は、司法試験まで使用したものが少なくありません。それだけ、内容が十分な資料であったと思います。

司法試験を受けてみて感じるのは、条文と判例の学習が重要であるということです。事案を解くためのスタートは条文であり、解釈が必要となる際に参照すべきは判例と

なります。筑波で配布されたレジュメは、これらの基礎的で重要なポイントを押さえてくれているため、そういった点から最後まで活用できたのだと思います。

(2) チューターゼミ

チューターゼミは、筑波卒業生等の現役弁護士がチューターを務めてくれるゼミで、科目ごとに開催されるゼミと、学生で組んだゼミに担当のチューターがついてくれるゼミ（個別ゼミ）の2種類のものがあります。いずれのゼミでも、学生の希望に沿った内容で開催してもらうことができます。違いは何かといえば、全体に開かれた誰でも参加できるゼミか、特定の学生で実施するゼミかの違いとなります。

私は、チューターゼミの中で個別ゼミを月1回程度で利用しました。授業は、決まった期間に決まった科目だけになってしまうため、苦手な科目や特定の科目から離れすぎないようにするために利用しました。自分の学習のペースに合わせてアレンジができるため、授業の間隙を埋めるために活用することができました。

(3) 学習設備

筑波大学では、自習室が24時間使えて、ゼミ室も（予約制ではありますが）開放されていて、自由に大学の学習設備を利用することができました。仕事の終わりに自習室を活用でき、休みの日には学生で実施する答案練習会等のためにゼミ室を使うことができました。学生同士で、お互いに励ましあいながら学習できる環境があったと感じています。

特に有意義だったのは、試験直前期に毎週ゼミ室を使い実施した答案練習会です。直前期には、司法試験の過去問を題材に起案するのが効果的な勉強になると考えました。そこで、過去問を学生同士で起案し、ディスカッションをして理解を深めました。それにより、書くことにも慣れ、本番の試験に向かえたと思います。

こういった学習を実施できるのも、大学が施設を開放してくれていたからです。いつでも使える学習設備が整っていることは、学習することだけでなく、学生同士のつながりを作るために、とてもありがたい場であったと感じています。

(4) その他

私の場合、入学直前に新型コロナウイルス感染症が流行してしまい、授業がオンラインやオンデマンドになるなどしたため、始め大学自体に馴染むことができませんでした。しかし、筑波大学ではそれをフォローしてくれる企画がたくさん行われました。

今でこそ、オンライン等の授業は珍しくありませんが、入学早々から急遽オンライン等の授業となり、右も左もわからないまま学生生活がスタートしました。そういった中でも、時折、教員や学生同士の交流の場を設定してもらえることはとてもありがたい企画でした。こういった企画があったからこそ、一緒に学習する仲間に出会い、共に合格できたのだと思います。

3. おわりに

いま、司法試験に合格するチャンスのある状況にあります。そして、司法試験に合格するために必要十分なものが、筑波大学には備えられています。もちろん、入学して卒業すれば、全員が合格できるとは必ず保障されるものではありませんが、自分の取り組み次第で、良い結果をつかむことはできるはずです。

法律の勉強をしたい、司法試験を受けたい、そう考えている方には筑波大学を強くお勧めします。法科大学院構想自体が、多様なバックグラウンドを持つ法曹を育成することを目的としているのであり、仕事を辞めずに通える筑波大学は、社会のニーズに応じている大学院といえます。また、社会人を対象としていることもあり、カリキュラムなどからも、社会人の方に特に勧められる法科大学院といえます。

ある教員の先生は、司法試験は手段であってゴールではない、といった内容の話を授業等で熱く語ってくれました。確かに、司法試験の合格は、法曹になるための手段であって、受ければそれで終わりとはなりません。こういった、司法試験合格後のことも見据えた授業を受け、学習できることも筑波大学の魅力です。

自分の勉強次第で、必ず良い結果が得られると思います。筑波大学に入学し、司法試験の合格をつかみ取ってください。応援しています！